

# ポスト・フクシマと 「沖縄革命」

-新著『辺野古の弁証法』を機軸に-

2016年 **6**月 **19**日 (日)

13:30~15:30 (開場 13:00)

塩尻市市民交流センター(えんぱーく) 3階 多目的ホール

定員80名(先着順) / 入場無料

※申込開始 6月2日(木)

〈申し込み方法〉

お電話または図書館本館総合カウンターでお申し込みください。

当日は、山口さんの著書の販売とサイン会があります。

## 講師からのメッセージ

東京電力・福島第1原発事故の実情が隠蔽される一方、戦争の危機が確実に深まる日本。圧制の焦点とされながら、いま沖縄は人間としての尊厳を賭した抵抗を続けている。この闘いの意味を世界史的構図の中で説く作家、渾身のメッセージ。

【お問い合わせ・お申し込み】 塩尻市立図書館本館 電話:0263-53-3365(毎週水曜休館)

## PROFILE

山口 泉(やまぐち いずみ) 作家。1955年、長野県生まれ。東京藝術大学美術学部在学中、21歳で中篇小说『夜よ 天使を受胎せよ』により、第13回太宰治賞優秀作を得て文筆活動に。小説と評論を通じ、現代世界における「自由」と「平等」を一貫して追求する営為は、最晩年の埴谷雄高氏から「戦後文学のすべてを成し遂げ、さらに未来へ進む」と評された。

「小諸・藤村文学賞」選考委員。SHANTI(絵本を通して平和を考える会)アドバイザー。同志社大学メディア・コミュニケーション研究センター嘱託研究員。日本文藝家協会会員。日本ペンクラブ会員。

著書『吹雪の星の子どもたち』『旅する人びとの国』『星屑のオペラ』『アジア、冬物語』『新しい中世』がやってきた!』『テレビと戦う』『原子野のバッハ』等、多数。長田洋一氏の担当では、河出書房新社から『世の終わりのための五重奏』『悲惨鑑賞団』『オーロラ交響曲の冬』『ホテル・アウシュヴィッツ』『永遠の春』『神聖家族』『宮澤賢治伝説』の7著を上梓。

2013年春、東京から沖縄市に移住。以後は沖縄県民として、日本政府の圧制に抵抗する闘いに参加。最新刊『辺野古の弁証法—ポスト・フクシマと「沖縄革命」』は、そのかんの経験と思考の結晶でもある。

ウェブサイト『魂の連邦共和国へむけて』。ブログ『精神の戒厳令下』。ツイッターアカウントは「山口泉(反戦・反核・基本的人権)」。

主 催	塩尻市・塩尻市教育委員会
企 画	長田 洋一(編集者・元河出書房新社『文藝』編集長)
顧 問	永井 伸和・山野 浩一・常世田 良
後 援	塩尻書店組合・長野県出版協会・長野県図書館協会・信州大学・松本大学・朝日新聞松本支局・信濃毎日新聞社・市民タイムス・中日新聞社・長野日報社・毎日新聞松本支局・松本平タウン情報・読売新聞長野支局・エルシーブイ(株)・テレビ松本ケーブルビジョン・abn長野朝日放送・NBS長野放送・NHK長野放送局・SBC信越放送・TSBテレビ信州・日本ハイコム(株)